

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みどりのこども館 通園部ウィズ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月31日		～ 令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和7年1月23日		～ 令和7年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・こどものことを理解し、こどもの特性などに応じた支援を行っている。	・児童発達支援計画を作成する際には、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で検討している。個々のこどもに対し、アセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を分析した上で児童発達支援計画を作成している。	・児童発達支援計画の内容が活動に反映されるように、こどもの情報を職員間で共有し、ミーティングの時間やケース会議を引き続き行いながら支援を考えていく。
2	・活動プログラムが固定化されないよう工夫している。	・活動プログラムの立案をチームで行い、それぞれの視点から意見を出し合って活動プログラムが固定化されないようにしている。	・こどもの課題を考えていく中で、専門職からの視点も取り入れながら活動プログラムを考え、活動に反映できるようにしていく。
3	・こどもの日々の様子を保護者と伝え合うことや、情報伝達のための配慮をしている。	・連絡帳アプリの機能を活用して、活動の様子について保護者と分かりやすく共有するために写真を定期的に掲載している。	・定期的に行っている活動写真公開のその目的を保護者に再度伝え、一度の公開枚数を増やすことでより分かりやすく様子を伝えられるようにしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・近隣の保育園や認定こども園、幼稚園などとの交流の機会が限られている状況である。	・現在の状況として、年間通して5回、同一の保育園との交流の機会を設けている。 ・利用児にとっては交流の活動はいつもとは違う内容で、見通しがつきにくく緊張度の高い場面となってしまうこともある。また、感染症の流行などで中止せざるを得ないこともあった。	・保育園などの地域の子どもたちと交流する活動について、保護者会や連絡帳の配信などで改めて詳しく説明し、交流を実施する意図の理解を深めていただけるよう工夫を行う。
2	・施設設備に利用児のスムーズな入退室がしにくく、バリアフリーでない部分がある。	・2クラスでの行っている活動提供方法が施設設備に合っておらず、活動室などのゲート類は簡易な市販ものを使用している。	・強度のあるゲート類の設備の設置を検討する。また、どのような障害の特性にも応じられるように、バリアフリーのものを検討する。
3	・家族に対しての研修会や講座など実施はしているが、回数が少ない状況である。	・現在は、SVIによる講座を年に1回の実施。内容は、日々の保護者とのやり取りなどから困り事を抽出し、職員が保護者のニーズに合いそうなものを検討し決定している。	・コドモンなどを利用し、保護者にどのような内容を聞きたいのかアンケートを取り、実際の利用児や保護者のニーズと照らし合わせた研修や講座を検討する。